

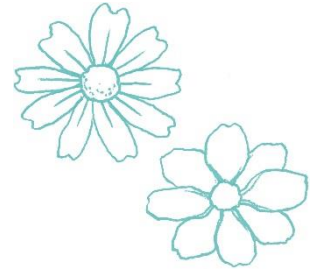
平成30年7月17日実施

## 「女の子を育てているママ・パパへ

～思春期を迎える前に」の様子

講師：都 智華子さん

(NPO法人プラチナママ代表)



### ♪こんなことをお話いただきました♪

女の子が思春期を迎えるまえまでに、知っておきたいお話

- ・女の子の身体と心の成長について
- ・自分や相手の身体と心を大切にできる子どもに育てるために
- ・月経のこと、どう伝える？どんな準備をしておいたらいい？

### 【学校の性教育】

- ★体の部分としての名前はわかるけど、自分の体に置き換えたときにつながらない・・・
- ★名前を暗記すればテストで点数がとれてしまうが、どのような働きを実際にしているかはわからない など

### 【女の子が自分の体を守るために】

- ★自分の体を「大事にしないと！」「守らないと！」と自覚している子どもは少ない・・・  
幼児期に性器を触ると「恥ずかしいからやめなさい」と大人に怒られた経験がある。  
→「私の体には恥ずかしいところがある」「隠さないといけない場所がある」  
本当は命がはじまる素敵な場所なのに、恥ずかしくて隠さないといけない場所だと思い込む。
- ★性被害に遭っても親に相談できない・・・  
親に性のことを聞くと、微妙な雰囲気になる・・・  
→「性のことは触れたらいけない話なんだ」  
性のことが「相談してはいけないこと」だと思い込み、他人に体を触られても「嫌！」とは言えず、周りにも相談できなくなってしまいます。その結果、インターネットを利用することになりますが、そこで得た情報により、余計に翻弄されてしまいます。
- ★「性器は大切な場所」だということを伝える  
思春期を迎える前は自分の体が大好きな時期です。その時期に「性器は神聖で守るべき場所」だと伝えることが大切です。

### 【性犯罪は遠い存在ではない】

- ★「こんなこと、うちの子どもに起こるわけがない！」  
学校には、少なくとも1人は性犯罪の被害者が実際にいます。
- ★メディアの影響  
メディアの影響により、男の子→「好きならいいじゃないか」、女の子→「受け入れない



とダメ」という思考ができあがってしまっています。

### 【月経をどう伝えるか】

★経血は「赤いお水」、月経は「おそうじ」

いつか好きな人ができて「赤ちゃんがほしい」と思ったとき、赤ちゃんが育っていくための「命のお部屋」が子宮です。「赤いお水」で命のお部屋を3日～1週間かけておそうじするのが「月経」です。出血や生理痛などから、ネガティブなイメージになりがちな月経ですが、けっしてそうではありません。

### 【「赤ちゃんはどうやってできるの？」という質問に対して】

★子どもから「赤ちゃんはどうやってできるの？」と聞かれたら、どう答えたらいいの？

ありのままを伝えましょう。「まだ教えるには早いんじゃないか・・・」と思うかもしれませんが、「まだ知らなくていいの！」と隠してしまうと、子どもはその雰囲気を感じ取り、「こういった話題はタブーだ」と思い込んだまま成長し、いざという時、大人に相談できなくなってしまいます。子どもが質問してくるということは、子どもの中に「聞く覚悟」がきているということ。隠さず話してみることが大切です。

☆先生のお話を聞いた後、グループに分かれて、簡単料理教室がありました。

♪今回のメニューは・・・

- ・つくねの照り焼き丼
- ・グリル de 焼き野菜
- ・おぼろ汁

でした！



☆お料理を作った後は、皆さんでランチ交流会を行いました。都先生に各テーブルを回っていただき、参加者の方と直接お話いただきました！  
和気あいあいな雰囲気、皆さん楽しみながら交流できました！

